

子どもの豊かな感性・思いやり・協調性を育む 自然とのふれあいを大切にする



訪問予定の園など

公立サンクト・ニコラウス幼稚園

サンクト・ニコラウス幼稚園の自然体験のための園庭は、2000年につくられました。1,520㎡ある園庭の計画づくりには、子どもたちも積極的に加わり、創造性あふれるアイデアをたくさん出しました。まず、子どもたちが夢の園庭の箱庭をつくり、それを基に保育者と保護者が一緒にデザインを考えました。近隣住民や園芸クラブの協力で、園庭は徐々にデザインどおりに形づくられていきました。山と谷は子どもたちが一番ほしかったものでした。長い滑り台がある小さな山と谷の高低差は4.5mあり、冬には格好のそり滑りの場所となっています。地域在来の植物が生える小川は子どもたちの大人気の場所です。実のなる低木や花の咲く草原も園庭に美しい色を添えています。そこには、チョウやミツバチ、野鳥等もやってきます。そのほか、登れる石積みや、柳の幹でつくった迷路、無造作に置かれている木の切り株などもあります。子どもたちは、五感を使って自然の色や形、感触、香り、音、味などを確かめながら、夢の園庭での外遊びを大いに楽しんでいます。こうした取り組みが認められ、自治体が管理費用を補助してくれるようになりました。保護者もこの園庭で大満足しています。



テレジア・ゲルハルディング幼稚園

この幼稚園は、大都市ミュンヘンの中心に位置しています。修道院など多層階の建物に四方を囲まれた中庭にあり、800m²とそれほど大きくはありませんが、2008年に、さまざまな生きものが発見できる自然体験の場所にするための改修が行われました。石と芝生だけのモノトーンな園庭は、滑り台のある小さな山、通り抜けができるトンネル、橋のある水辺、木の枝の迷路のほか、在来の野草の生えたエリアなどもある園庭ビオトープに変わりました。園庭づくりは、保護者イニシアティブの一環で、多くの保護者の協力を得て行われました。自然体験ができる園庭の完成を待ちわびる子どもたちの様子に、保護者の作業もはかどりました。園庭は、自然とふれあいながら多様な遊びが楽しめるパラダイスに変化しました。変わったのは園庭だけではありませんでした。子どもたちの態度や考え方にも大きな変化が現れました。自然とのふれあいを通じて、ほかの子どもたちへの思いやりの心や協調性が芽生えたそうです。今、テレジア・ゲルハルディング幼稚園の園庭は、都会の緑のオアシスとして、子どもたちだけでなく、周辺の人々にも大人気となっています。



バイエルン州労働社会家庭統合省、州立幼年期教育研究所

労働社会家庭統合省は、社会政策全般を取り扱う機関で、保育、障害者、高齢者、難民・移民、労働市場など多岐にわたる分野を取り扱っています。2005年に発行した州の保育要綱である「バイエルン州陶冶保育プラン（BEP: Bayerische Bildungs- und Erziehungsplan）」では、子どもの学ぶ権利を尊重し、子どもたちの多様性に配慮した保育を求めています。また、持続可能な発展のための教育を後押しするため、「乳幼児施設における環境教育と環境保育を実践するための教育者・保育者向けハンドブック」を発行して、生物多様性、土、水などの自然生態系の要素のほか、気候、エネルギー、廃棄物との関わり方などを提案しています。

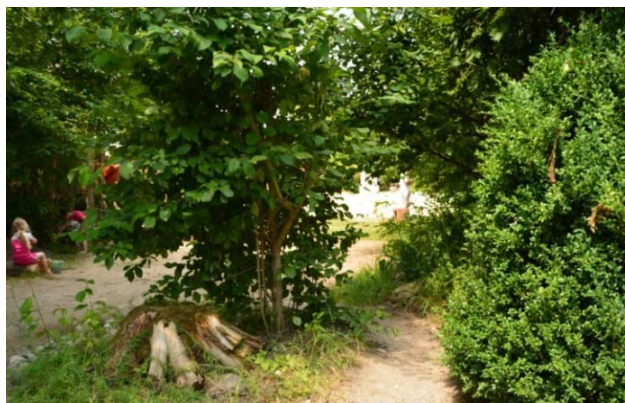
幼年期教育研究所は、幼年期教育や保育の発展に資する調査研究を進めるために、1972年に省内に設置されました。BEPの作成に中心的な立場に関わるなど、教育や保育の政策立案に力を入れるほか、国内外の教育・保育機関などとも連携しています。また、講演会やセミナーの開催、機関誌の発行などを通じた市民向けの普及活動の充実にも取り組んでいます。訪問では、州の幼年期教育制度や乳幼児施設における環境教育と環境保育について、自然とのふれあいと子どもの発育に関するレクチャーをしていただく予定です。



自然の子サント・ゲオルグ保育所幼稚園

自然の子サント・ゲオルグ保育所幼稚園の園庭は、野生の草花が咲き乱れる自然豊かな遊び場です。子どもたちが、体をいっぱい動かして遊べるよう、太い丸太やソリのできる丘もあります。そのほか、鳥の巣型のブランコや、ツリーハウス、小川や小さな池、虫宿などもあります。園庭の自然に魅せられて、ハリネズミやたくさんの鳥、ミツバチやチョウなど、多くの生きものがやってきます。こうした取り組みが認められ、ユネスコの持続可能な開発のための教育「緑豊かな遊び場賞」2010/2011を受賞しました。

園長先生のカビー・リンディングーさんは、自然とのふれあいが可能な園づくりは、子どもたちにとって何よりも大切だと考え、ほかの園の参考になればと、2012年に、「KinderAbenteuerGarten: Naturnahe Spielräume gestalten(子ども冒険園庭：自然豊かな遊び場づくり)」という本を出版しました。この園が地元の子どもたち、そして保護者に大人気であることは疑いの余地がありません。



エグルフィング自然体験の遊び場

ミュンヘンの南約 60kmにあるエグルフィングという町には自然体験ができる公園があります。この公園は、別の用途で使われていた 3800m² の敷地を利用して 2004 年につくられました。都会のように潤沢な資金はないけれど場所がある、それを利用して何をつくろうか。町の人たちが出した答えは「自然体験ができる遊び場」でした。まず、自然景観設計士の手を借りて、アイデアを出し、模型づくりを行いました。この作業には、小学生や 10 代も含む 2 歳以上の子どもたち、そして、おじいちゃん、おばあちゃんも参加しました。アルプスの景色と木工芸で有名な地域に相応しく、公園内にも 4 つの山や谷をつくりました。山にはトンネルと岸壁、谷には水辺をつくりました。凹凸のある地形を利用してマウンテンバイクが楽しめる場所も設けました。渡り木やツリーハウス、木の橋なども設置しました。こうした自然木の遊具は子どもたちの遊びの枠を広げてくれます。また、敷地全体に在来の多年草約 130 種、中低木約 80 種を植えました。春には野の花が咲きみだれ、生きものたちも訪れるようになりました。自然体験の遊び場は、子どもたちが安心して自然とふれあえる場所であるばかりか、大人たちの心のよりどころともなっています。



オーバーアマガウ森の幼稚園

この森の幼稚園は、森の中で安全に遊びながら自然とふれあい、様々な体験を通して心身の健全な発達を促すことを目的に、地域の子どもの親たちによって設立されました。この園では、州の保育・幼児教育プログラムでも推奨している『保護者イニシアティブ』を採用し、園の運営に保護者が積極的に関わっています。この園が利用している森は、小高い丘の上にあります。子どもたちは毎朝集まると、パンや飲み物が入ったリュックサックを背負って丘の坂道を登っていきます。森には、りっぱな園舎やプラスチックのおもちゃはありませんが、子どもたちの遊びに必要なものが全て揃っています。子どもたちは、森での毎日の遊びを通じて、野生の生きものの営みやつながり、四季の変化、生や死、物質の循環などについて学びます。花や葉っぱ、木の実や枝、倒木など、森のなかには想像力をかき立て、好奇心をくすぐる材料がたくさんあります。子どもたちはそれらを使って、工夫を凝らした独自の遊びを創り出します。四季折々の森の自然と向き合いながら、五感を使って遊ぶことで、子どもたちは驚くほど多くのことを日々学んでいます。この園が保護者にも人気が高いことは言うまでもありません。



サント・クイリヌス保育所幼稚園

サント・クイリヌス保育所幼稚園は、2008年、子どもたちの希望を取り入れて 2,400m² の園庭を自然体験のできる場所に改修しました。平坦な敷地を三次元的な創造性豊かな空間に変え、雨水を利用した小川や立体的な砂場、小高い山とその斜面に沿った長い滑り台、登れる壁、たき火ができる場所、タコのモザイクが印象的なトンネルなどもつくりました。また、地域在来の多様な植物が茂る草原も再生しました。公立の園ではないものの、補助金アドの提供を通じて地元の自治体が応援してくれました。また、教会や企業、個人からの寄付もプロジェクトの大きな後押しとなりました。完成から数年で、園庭の様子は見違えるように華やかになりました。また、たくさんの昆虫や野鳥などもやってくるようになりました。この園は、ドイツ政府の園庭の生物多様性を高めるプロジェクト「保育所幼稚園の園庭 一緒に多様性を発見しよう」の参加園です。サント・クイリヌス保育所幼稚園の自然体験のための園庭は、まさにこのプロジェクトの趣旨を体現したかのように、生きものの多様性と発見に満ちています。保護者にも大好評で、入園希望者リストはいつも一杯です。



シュヴァネック城自然体験センター

シュヴァネック城自然体験センター（NEZ）は、ミュンヘン市が運営する環境教育施設で、イザール河畔の森に建つシュヴァネック城の敷地内にあります。隣には、青少年向けの教育センターとユースホステルが併設されています。センターでは、持続可能な発展のための教育の促進に資するため、「自然体験 - 未来をともにつくる」をモットーに、子どもから大人まであらゆる人々を対象に、自然や野生の生きもののすばらしさ、環境への責任などを伝える活動をしています。年齢・国籍・障害の有無などに関わらず自然とふれあってもらえるよう、多様なプログラムを用意しています。大人向けの自然教育プログラムは、社員研修などにもよく活用されています。遊びやものづくりなど、楽しい活動を通じて、自然や社会、世界のことを考え、思い、理解する機会を提供しています。シュヴァネック自然体験センターは、2006年、バイエルン州内の環境教育施設のネットワーク「環境教育バイエルン」の一員となりました。このネットワークには、州内 134 の施設が名前を連ねています。年間に行われる約 33,000 のイベントには、83 万人以上の子どもたちが参加しています。



※写真はイメージです。

※視察先は諸事情により変更になる場合がございます。予めご了承ください。

視察企画・協力



171-0021 東京都豊島区西池袋 2-30-20 音羽ビル

TEL 03-5951-0244 FAX 03-5951-2974 <http://www.ecosys.or.jp/>